

駒込あおば内科は透析施設併設の総合内科医院として、何でも気軽に相談できるクリニックを目指し2013年11月に開業。「自分の納得する良いと思う医療を行い理想の医療を追求したい」という思いから、透析施設を全室個室で提供しているのが特徴です。
岡松健太郎院長にお話を伺いました。



iPadで夜間の患者対応もスムーズに

BML電子カルテとの出会いと導入の決め手

「透析では細菌培養検査などの特殊な検査を扱いますが、先輩から『BMLの培養検査は信頼できる』と聞いていたこともあり、外注検査はBMLに決めていました。

電子カルテはコンサルタントが紹介してくれた他のメーカーも何社か見ましたが、外注検査の連携がスムーズなこと、セットなどを登録しておける『お気に入りセル』が使いやすいそうだったことも決め手となってQualis（クオリス）にしました。以前勤務していたクリニックでもBMLの電子カルテ『Medical Station』を使っていたことで馴染みがあったことも大きかったです。」

オンプレからクラウドへの移行

同院では開業時にオンプレ型のQualisを導入し、その後、クラウド型のQualis Cloud（クオリスクラウド）がリリースされたことを受けて、リプレイスの際に移行を検討されました。

「災害などの場合のデータの安全性を考え、これからの時代はクラウド型がよいと思いました。また、透析患者さんは24時間対応が必要です。夜間に患者さんから連絡があった際にはこれまではその都度自宅からクリニックに戻ってカルテを確認していましたが、Qualis Cloudのオプション機能を使うと自宅からでもiPadでカルテの内容や連絡先を確認できるようになるというのも、クラウド型への移行を選んだ大きな理由です。iPadが使えるようになってからとても助かっています。」

Qualis Cloud（クオリスクラウド）の活用方法と効果

「カルテ入力には『お気に入りセル』を中心に活用しています。病名、所見、処方をパターンごとにセットを組んで登録しているため、『お気に入りセル』からワンクリックで病名まで入力できるのは非常に便利です。患者さんによって処方量を変更することも簡単ですし、追加したいセットも自分で作成し、カスタマイズしているので使いやすさがどんどん向上しています。

血液検査結果は翌朝にはカルテに自動で取り込まれるため、時系列表示で確認しています。透析関係の検査は一般の検査とシートを分けて表示できるようにしていますので、必要な情報を効率的に確認できます。

投薬歴機能もよく利用しており、処方期間と量がグラフ状に表示されるため非常にわかりやすくなっています。薬を中止した時期も一目でわかり、中止した理由を忘れた場合はクリックで過去のカルテにジャンプして理由をすぐに確認できます。」

続けてBMLのサポート体制についても「BMLのサポート体制はしっかりしていると思います。不満はなく、非常に満足しています。困って電話した時にも一生懸命に対応してくれています。」と高く評価してくださいました。